

1月22日、デザーイーKDP対外関係担当政治局員は以下のとおり述べた。

(1) (一政党であるKDPがクルドを代表して外交を行うのはなぜかとの問いに対し、) 他国の政党と同様に、我々も対外関係局を有しており、各国の政府、政党、組織等と関係を維持している。91年まではこのような役割はなかったが、91年にクルド自治区となると外交が必要となり、31名いる政治局員のうち、自分がこの役割を担うようになった。クルドの問題を対外的に必要し、調整するためである。

(2) (クルドの変化は目覚ましく、驚いたと述べたところ、) 91年の大衆蜂起に引き続き、多国籍軍によるセイフ・ヘブン化もあり、クルド自治区は独裁政権から自由になった。その後の我々は、過ちも繰り返したが、現在のように自由を謳歌し、重要な安定を享受している。我々は、隣人による治安責任の分担を進めており、不安定の除去のために責任を共同で負っている。

(3) (クルドの将来) 現在はこれまでと全く異なる状況になっている。クルド自治区は安定しており、多くのイラクの人々を受け入れている。たとえば多くのキリスト教徒がクルド地域に来ており、我々は彼らを支援している。クルド人は、キルクーク、シンジャール、モースル等に対する歴史的な権利を強調してきたが、我々が主張しているのは、民主的に憲法を順守することに他ならない。国民投票で支持された憲法第140条は、キルクークの帰趨に関する住民投票を定めているが、この条項の適用は遅れている。この遅れが技術的であればよいが、政治的・意図的であれば受け入れることはできない。我々が求めているのは、国民が支持した憲法の適用である。

(140条の適用および紛争地域での地方選挙は不安定を招くとの意見もあるが、とただしたところ、) そのような意見があるのは承知しているし、民主政体下での意見の相違は当然である。しかしながら、それは問題の本質ではなく、憲法の順守や民主主義の一形態である選挙を阻害すべきではない。実際のところ、1991年に大衆蜂起が発生し、ペシュメルガが治安権限を掌握しても、クルド地区ではバアス党员に対する報復は一件も発生しなかった。

(独立に向けた希望) クルド人の中にも、独立を志向するものが少なくないことは知っているが、我々はイラクの下での連邦を目指している。我々はクルド人としての権利が保証される限りにおいては連邦を支持する。

(憲法が意図的に適用されない状態は受け入れられないと述べていたが、もしもそうならば独立を志向するという意味か、との問いに対し、) 我々の希望を悪夢に変えるべきではない。

(4) (イラクの状況は改善に向かっていると思うが、その一方でマーリキー首相による支援評議会の設立や、イスラーム連合や社会党の連立与党からの離脱等、問題も多いようだが、との問いに対し、) 首相が民兵組織などを設立すべきではなく、問題は近い将来解決されるであろう。イスラーム連合等は政府を批判するが、そもそも彼らは与党に在り、彼ら自身が責任を共有していることを知るべきであり、批判したいのであれば完全に野党になるべきである。

(5) (イラク人とクルド人では、ブッシュ前大統領に対する評価やオバマ大統領に対する大衆の期待には差があるようであるが、との問いに対し、) 多くのイラク人は、ブッシュ前大統領が独裁者からイラクを解放してくれたことに感謝している。しかしながらブッシュ政権はいくつもの間違いを犯した。たとえば、2002年12月の(反体制派によるサラフ・ツ＝ディーン) 会合の合意が実施されないまま、安保理決議に基づき占領状態がもたらされたことは、大きな間違いであった。黒人がホワイトハウスに入ることは大きな変化に違いないし、変化を語る大統領が占領状態を終結させることは望ましい。しかしながら、新しい大統領が国際テロに対して寛容になるとは思えない。また、拙速なイラクからの撤退には反対であり、イラク人の手によって治安が維持されるようになるまで時期を見ながら対応していくべきである。

(6) (ほかの中東と比較して、ブッシュ政権が終わることを歓迎する声が少なく、ガザ支援が目立たない等、クルド地区の状況は特殊に見えるが、との問いに対し、) ガザの状況は深刻であり同情するが、この問題はあまりにも政治化されている。ガザ支援の盛り上がりには欠ける状況を正当化するわけではないが、我々クルド人は、中東においてもっとも悲惨な経験をした民族であり、その際、アラブの国は一言もクルド人に対する同情を表明しなかった。正しいアプローチでないことは明白ながら、大衆の中にはこのような経験が反発を呼んでいるのかもしれない。

(7) (PKKがイラク国内に樹立した政党は雲散霧消したのか、との問いに対し、) 然り。彼らは現在でもバドナーン・スーラージー党首の下、PCDK という政党を小規模に活動させているが、これは非合法であり、地下活動である。